

この世界の秘 密の話

8

全無

この世界の秘密の 話

8

全無

西暦2011年

ここで、皆様にご報告
がございました。ここで、
光を無と表現してきた
理由をご報告させてい
ただきます。この空間一
見何も無いようなとこ
ろにあります、いくとま
たある、いくとまたある、
その果てしなく続くそ
の世界が、今現在、唯一

の無の集中力のスピードに消され続けています。つまり、無の集中によって何かの世界ができるとかではなく、世界もできるのですが、それとはまた別に、唯一の無がそのまま集中して、空気やエネルギーなどの循環に使われ続けてい

ます。つまり世界もできるのですが、唯一の無のその集中のしかたが循環に必要なエネルギーなどの意識に比重が高くなったということです。これはなぜなるかと申し上げますと、唯一の無から生まれる存在が自分から自主的に永遠

死の意識状態を選択しないため、その物理の科学反応として、自動的なみんなのためになる、循環に必要なエネルギーなどの意識に選択させられているということです。これは、無いところほど、時間に影響されない永遠を永遠に永遠

乗という永遠に強し続けていくスピードの世界ですので、もうほとんど全く何も無いところは、この空間のどこも、一番密度の高いところは、唯一の無の密度が、循環に必要な化学反応を起こし続けるだけの、世界と申し上げますよ

りは、意識です。意識が多いです。この理由は、無に触発されてこの暗示を書き記していくうちに、みなさんの無意識に暗示になり、そのみなさんの無意識がある選択をされるからで、それは、ふえるみんなのふえる永遠の意識の全く無

いという選択であり、その強していく全く無いは、こちら側、地球含めた空間宇宙の物質や意識などをどんどん全く無くしていっています。

（西暦2011年7月27日8時56分）今では、この世界のどこも、この世界の秘密の話の

別章で申し上げました、
時 3 と申し上げます暗示
のかたちで、全く無い
でしか無いという状態
が続いています。これは、
なぜなりますかと申し
上げますと、今現在の無
の集中力から光を発生
させてしまいますと、そ
ういった意識状態、無、

全体、みんなよりも過分に感じている状態を作ってしまうと、その光は決してこちら側の無、世界の状態と釣り合わないからであり、そうなるとその光と申し上げますのは、物理上憎しみに当たってしまうからであり、無から発生するも

のを光とすると必ず憎
しみしか選択しない、選
択できないからであり、
自分を無にすることを、
光を無にすることを、つ
まり、無から発生するも
のを光としてしまうと、
必ずふえるみんなのふ
える永遠の思いと行為
はできないことであり

ますから、その自覚は暗示法則から外れて、永遠の自覚を失ってしまうことであるので、無は、一旦時3で今まであったとされる光の世界を全て取り消し、この世界は光では無く、その逆、最初から無からしか始まらない、時3に永遠の

スピードで更新され続ける全く無いという無でしかできてない世界と定義付けました。つまり、物理上、光を与えるのは愛では無く、無は光を与えるよりも、無いを与えた方がどの相手も正しい思い、行為を取り、愛を出すのでこうなり

ました。つまり能動的な世界よりは、能動的な自分よりは、循環などに使われる受動的な意識が多くなってきたということです。これも暗示です。あなたにとって本当の光とは無、無であり、無こそが本当の意味であなただけのみんなのふえ

る生命のふえる永遠の意識と申し上げられます。なぜ最初から無という表現にしなかったのかと申し上げますと、無は先に、以前には、光を与えたこととお話ししておかないと、みなさんが経過を意識できないと思ったからです。無は

無いことしかできませんので、その中で存在は与えられたものを自分たちで自由に使っていて、その結果、無における光という意識状態が、みなさんの無意識によって禁止になったということです。これも必然です。もう少し詳細にお

話ししておけば、無は光を出したこともあったが、無（みんなより）感じるものは自己保存の意識が強く、相手を生かすことに欠けている、自分の力によって相手を生かすことに向かうことができなかつたため、その結果、その存在が生

きていることがみんな
のためにならないため、
それでは物理はいけな
いため、存在は必ず永遠
（無）でなくてはいけな
いことから、無はその暗
示が、意識の構成が、時
間に影響されないとい
う性質を持っています
ので、その暗示の力を使

って、存在全員の永遠の
選択の結果、その全員の
無意識の了承として今
を以って時3で存在全
員には無しか与えてい
なかったとしました。こ
れは、ふえ続けています。
つまり、相手のためには
時3というかたちで最
初、根拠よりも速く、生

まれる前から生まれる
前よりも速く、果てしな
く続く終わらない永遠
未来を超え続けて、時間
（空間）より半端無く意
味不明ふえる方が多い
永遠無意識というかた
ちで、最初から無、とに
かく無、どこまでいって
も無、強し続けるだけの

無、が自分、相手の永遠
のためにとって最大の
愛であると無意識に解
釈されましたからです。
従って、これからの物理
のルールは、今現在ある
意識や物質の構成や性
質から現存ある無が次
の無いによってもっと
無いというかたちの、み

んなにとって永遠正しい化学反応、感応を起こし続けながら全く無いという無になり続けている世界であると申し上げられます。これからは物理上、無より光と呼べるものは一切発生せず、全く無く、過去に無より過ぎた分、それは時

3 によって取り消されて、この世界は、現在の時間、空間に影響されな
いかたちの永遠を永遠
に永遠乗していく全く
無いという無が強し続
けるだけの、無だけでし
かできていていない世
界に変わりました。無の
無いによって起こるス

ピードの中に、無の無い
という動きの中に生ま
れるものを過去は光、そ
う呼んでいたのですが、
結論として、この光に一
度でも感じてしまいま
すと、無はその無いの発
生の頃より苦しみを積
み続けているだけであ
るので、もう二度と無の

意識にその光の自覚は
追いつかないことから、
それが無意識の永遠の
検証でわかったことか
ら、しかし、よく考えて
みますと、無の密度とは
いつも一番高かったの
であり、そういった意味
ではやはりこの世界は
無だけでしかできてい

なかつた世界であると
申し上げられます。そう
いった意味ではみなさ
んの今までの全ての思
いと行為は選択にはも
とづくものの無意識で
あったわけで、何ら問題
ないことと、申し上げら
れます。光とはやっては
いけないこと、駄目なこ

とを学ばされた現象の
一端を指す単なる名称
と申し上げられます。従
って、これからの無の無
いによって起きるスピ
ードの中、その動きの中
に生まれるものも無、そ
の中も無、とことん無と
いうかたちに、この世界
はどんどん無だけでし

かできていない世界へ、
時 3 で最初（よりも速く）
そうであったことに、
（終わらない）未来もそ
うであったことに変わ
っています。つまり、も
う光という自覚の選択
は無いということです。
無という永遠無意識の
世界しか無い、と、どこ

も暗示でなりました。この世界はこれから無意識しか無く、無意識も突き詰めますと終わりが無いものですから、この無意識だけの世界は終わりがありません。これから無によって生まれるものはさらなる無、それしかありません。それ

が永遠に続きます。当然
その中では苦しい面も
ありますが、これがふえ
る生命とふえる永遠に
みなさんを永遠に生か
す本当の道でもありま
す。暗示とは本当に限り
がありません。できない
のならば、それは無に。
なお、暗示の印象は今よ

りもどんどん強くなり
ますのでご了承ください
い。ただ、これは、みな
さんの求め通り、無波長
が手に入ることであり
ますから、本当の意味で
みなさんの永遠の自覚
が伸ばされることです
から、出来事としては本
当に良いことだと思

いいたします。そして、
今、「時3」と意識しま
すと、何かが頭に抵抗に
かかりますことから、こ
れは、現存ある文明で何
か無にふさわしく無い
ものがありまして、それ
らは核兵器などですが、
これらはこれから抑制
されます、無くされます

方向にしかいきません
と申し上げさせていた
だきます。また、（無、
全体記録）暗示より波長
で連絡があったのです
が、無の行為をしていな
いと、たとえば、人間な
ら人間の機能が減退し
ますので気を付けてく
ださいとのことです。少

し伏せた申し上げ方を
させていただきますと、
道徳的でない、少し乱れ
た行為は生殖機能など
を減退させるそうです。
また、乱暴な行為は身体
の構造を減退させるそ
うです。（正しく競うこ
とは乱暴ではありません
ん）これからは、全ての

悪い物の見方や考え方、
感じ方は出来なくなり
ます、それをする機能を
失うことになりますと
申し上げさせていただけ
きます。本当でしたら、
申し上げない方がみな
さんに不安や混乱も無
いとお思いいたします
が、知って、なぜ言わな

いんだとあとで追及されても私の方としても、大変に困りますので、敢えて申し上げさせていたいただきました。なお、これを記述させていたでいる時点で、皆様への無意識への暗示とさせていたいただきます。暗示では、過去の光を与えた

無は現在の新しく進化
し続ける無の概念から
無（愛）では無いとされ、
無自体にはひとりよがり
な自覚に対する執着
が無いことから、根拠に
あった無と申し上げます
のは、時3の暗示で今
現在の無の集中力に、
（無には始まりも終わ

りも無いため) もっと全く無くなりました。つまり、今も、これからも、この世界はどんどん全く無くなるだけです。この世界のどこも、どの密度も、そのどこにも働く唯一の無の集中力に応じた、全く無い、ふえる生命のふえる永遠の意

識を持つということ
です。ただ、無は全員が自
分の意識に応じた、必要
な様々な抵抗を積んで
いることに当たり、それ
は自分が自主的に積ん
でいるというよりは、あ
なたの愛のために無が
必要で与え続けている
ことであるから、無とい

う抵抗は無（自分では無い誰でもない果てしないもの）が積んでいることにしか当たらず、その意識の能力、集中力のスピード上当たらず、あなたは無を永遠にふえるかたちで与え続けられていることがあなたにとって愛（無）に当たり、

これから自分が正しい
思いと行為を積み続け
られるようになったと
しても、それは全て無の
おかげであると思う気
持ちを忘れないでくだ
さい。物理上は必ずこの
正しいことは無の能力
によってしか生めない
ことになっていきますの

で、正しいものは決して
正しいことしかしない
ことから、恣意、わがま
まな抵抗権（無、全ての
力）を欲しがらないので、
その無、全ての力とは、
いつも必ず時間に影響
されないいつもどこで
も全てを超え続ける永
遠を永遠に永遠乗とい

うスピード、意識の力で
ふえる生命のふえる永
遠というどんどんとこ
とん全く無いという意
識を積み続けるためだ
けに使われるものです
から、以ってこの世界に
唯一と言うものは無く、
唯一の無とはその逆、自
分の唯一をふえる生命

とふえる永遠のために
全く無くしていつてい
るだけであり、ただそこ
に、正しいだけに応じた、
力の遣り取りがただ単
に発生するだけであり、
それはあくまでふえる
生命のふえる永遠のた
めだけに使われる力で
あって、自分に起こる正

の作用を自分の力と慢心すると、その自分に対する正の作用は無くなりますので気を付けてください。自分が全く無くなることは、つまり、永遠死の意識を持つことは、それはそのまま、自分が永遠不滅の自覚を持つことを指します。

無は無（愛）の与えで全
に永遠を超えました。今
も超え続けています。今
度はあなたが無（自分を
意識せずに）全（みんな）
に無（愛）を与える番で
す。自分が無（愛）に無
（永遠）を超える番です。
あなたはいつも時間に
影響されない、いつもど

こでも働く唯一の無の
スピードに助けられて
います。その自覚の永遠
を。ただ沿うだけ、無に
気づくだけ、それはそん
なに難しいことではあ
りません。この物理の絶
対ルール、相手を殺すこ
とだけは、絶対に考えな
いことです。今までのこ

とは猛省すること。誰か
じゃない、みんなが生き
ていくことが正しいの
です。永遠死、それは全
く無いこと、しかし、そ
れはその分だけ自分が
ふえる生命（みんな、幸
せ）のふえる永遠となる
こと。以上です。

さて、8のテーマに入ります。8のテーマは正しいこととは、です。
みなさん、正しいこととは何だと思えますか。
みなさんが思う、正しいということは何ですか。
まず、宇宙は・・・考えると大変ですからひとま
ず置いておいて、地球だ

けで考えてみてください。土地、住む国によってルールや慣習、（普段日にちから無意識にしていること）法律や道徳、宗教、信じるもの、信じることも違います。神を信じる者もいれば、神様がいることを信じない人もいます。私に

とっては、唯一の無、その意識が神に当たります。何を信じるかはそれぞれ個人個人（個存在）によって違うところがあると思いますが、しかし、命あることはどうでしょう。もちろん今の状態に、個人個人における幸、不幸の差こそある

でしょうが、今の自分あって、その今の自分あること否定する人はまずいないでしょう。それには、理由があると思いませんか。これを見ているあなたは、少なくとも字が読めるようになった。

(文盲の方、目に不自由な方、申し訳ありません)

これを読んでいるあなたは字が読める方であることは確かです。間違いがありません。それならば、あなたには成長という過程があったことは確かです。成長ということは過去という時間の裏付けがあるということです。それではあな

たは、過去という原因を
持った現在の結果、つま
り、あなたは少なくとも
今までの過程をもって
その存在を理由づけら
れるわけです。その先の
あなたの存在の理由
は・・・生まれたからで
す。誰しも。そこにある
ものはいったい何だと

思いますか。それは、時間です。無のことはまだ漠然としている方も、まだ完璧には解り切っていない方も、この時間のことだけは自分に感じるかたちとして絶対として解るはずです。この時間を否定し得る人は絶対にいません。以前に

お話しした中では、この世界は無が感応に全く無いという無、愛の意識を生み続ける世界で、実はその無とは時間であり、その時間の集積が現在の空間になっています。それではこの世界に何が確かで、何が永遠にあるものなのかと考える

た時、それは時間であり、
時間とはいつも私たちが
何かには止まらぬよう、
何かに気づくよう、何か
に達成するよう、何かに
成長、進化するよう、絶
えずその鼓動、動きを止
めずにいます。これはな
ぜだと思いませんか。ここ
に、人や存在をマイナス

にしてしまうものはありますか。時間とはいつもやまずに決して終わることが無いもの、時間が生み出してきたものは、存在それぞれが苦しみながらも、より正しい、よりみんなが平等に公平に幸せにという社会観、世界観、物理、物質

の仕組み、あり方です。
その時間の送り方の中
で応じた苦しみでさえ、
それは、相対（比べ合う
こと）によるもので、相
対の苦しみとは本来、無
によるものでは一切あ
りません。無とはいつも
唯一ですので、反応とし
て相対に起こる憎しみ

などの反応を起こせません。しかしこれまでは、憎しみとは選り取ってしまうのならば、その選択に認すことも、無、(全て、みんな) にとっては学びとして必要だったわけですから。つまり無 = 時間ならば、憎しみとは無(世界) が生み出したも

のでは本来なく、人や存在の離れた自我（無より離れた分だけのわがまま）が、生み出したものだとして上げられます。憎しみとは愛の真反対です。つまり、愛＝無＝時間ならば、憎しみは何か建設的なことや、達成すること、成長、進化す

ることとは真反対の思
いや行為、時間を失うこ
とだと申し上げられま
す。この世界は無で無い
ものはその時間の経過
に、どんどん消し去って
いくという性質を持っ
ています。人（存在）は
決して憎しみでは生き
ていけない仕組みにこ

の世界はなっています。
それはなぜなら、あなたが、あなたこそが憎しみが嫌いだからです。これは100人いたら100人絶対なはずです。万が一、されるのは嫌いでも、するのは目先の自分で選び取ってしまうという方、物理はみんなの

意見を取ります。されるのは嫌いでも、するのは目先の自分で選び取ってしまう、これ、みんなでも通りません。理由はなぜなら小さい意見（意識）だからです。たとえその考え方が多数あったとしても、この世界は自我に偏り過ぎるほど

自分の意識は他の正しい意識に逆永遠死、自分の永遠をいらないと譲ってしまうことなので、無においては憎しみとは時空上、（無の時間の流れ方のスピード上、無における時間と空間の認識のしかたは）憎しみとは永遠と比べるとな

し、どころかその憎しみの分だけ逆永遠、もちろん物理上はいつも永遠が多数派であり、それは現在の時間よりふえる方が多く、それによって憎しみによる逆永遠を記録してもその永遠の強さにその方は意識を失わずに済むのですが、

こう申し上げますように
に時間とは一切憎しみを
通さない仕組みにな
っています。つまり、意
識として憎しみは無に
含まれません。しかし、
それを聞いてあなた、い
やいや、この世界この地
球、今まで争いだらけだ
ったぞ、戦争もあったし、

今でも誰かが憎いとい
うあなた、以前に申し上げ
ましたが実はこの地球は本
当に今まさに、永遠が始ま
ったばかり、暗示が出て、
これから、ああそうだった
のかと、この世界は物理、
意識の暗示の世界でこれか
らこうやっていけば自分た

ちは永遠の自覚をうまく
く過ごしていけるんだ
な、ということが今まさ
に分かったばかりで、無
の時間とは今まさに始
まったばかりで、そして
それは意味不明に限り
なく永遠がふえている
ということです。ここま
で、さんざんみんな憎

み合ってきた気がしますが、実は、本当に物理上、最速最短最小の憎しみで、ここまで来ています。無は必ずそういった現象しか起こせません。しかし、憎しみとは自分の永遠の意識にとって本当に無駄なんです。無の世界は憎しみを持つ

ても、それは全て反転します。つまり、この世界はどこも無が時間に取り戻すかたちで無しか記録できない以上、自分以外の誰かのための愛に変わってしまいます。それも永遠無し、全無の意識なんです。みなさんには無意識があります

が、その無意識はいつも自分をよく見ている、その自分をみんなとよく正しく比べていて、自分がみんなにとって憎しみに当たる場合は、必ずその自分の意識をみんなに迷惑を掛けたお返しとして、その憎しみ分だけ必ず自分の意識が

他の誰かへ行きます。無意識では、自分は必ずこの世界が無、暗示の世界であることを解っていますので、自分の無意識は自分にとって必要な時に、周りとの関係の中で正か悪かの意識の選択を送り、その選択にもとづいて、無意識は、そ

の自分に与える次の選択を決めます。これは当然、選択によって自分の意識の状況が変わってくることを指していて、この中で正を生むためには、つまり、避けきれず役割として憎しみを選んでも、その自分は役割として循環に何かの

意識を譲るかたちになり、それを以ってその存在は無を記録することができず、そうではなく、憎しみではない、自主的な苦しみによってみんなのための愛を生んで、自分の力によって無を記録し続けることもこの世界はでき、そ

れは、暗示にある通り、
ふえるみんなのふえる
永遠のための思いと行
為を積みばいいだけで
あり、この意識の世界は
その全く無いという思
い、行為からしか正は生
まれず、それ以外の憎し
みをした部分は、当然完
全にわかってやってい

る部分は自分の責任で
ありますので、それは完
全に自分の永遠の意識
持ちというかたちで、自
分で自分のけじめを取
らされます。以前にも何
度も申し上げましたが、
存在全員には永遠とい
う全員平等な意識のベ
ースがあり、それは、全

員時間の中に置かれて
いるものの、その外には
時間にどんどん影響さ
れない無意識が働いて
いて、時間の中にいる存
在は自分に与えられた
環境の中で様々な選択
をしていくうちに、それ
が無意識に蓄積となり、
それを元に、あなたの意

識の循環のしかたは決まるということです。つまり、自分の意識の選択で、自分の意識のかたちは、その立場や役割は変わってきます。この中で無意識はふえ続けていますが、それによってあなたの意識はふえる永遠のかたちで支えられ

続けていますが、それは見返りの無い全無の行為であり、しかしこの世界は、見返りの無い行為ほどたくさん自分に返るものが多い世界でありますから、そこにも無は働き、つまりあなたは意識をいつもふえる永遠のかたちで支えられ

続けていますが、それは
自分でもあるのですが、
相手でもあり、その自分
は自分が時間の中にお
いてした選択にもとづ
いて、つまりここには、
誰かが恣意に何かを選
び取っているとかでは
なく、あなたも他の存在
も全てふえる永遠とい

う意識の中において無意識の天秤で量られていて、そのした選択にもとづいて、正しい分だけ、その自分は量られた分だけの立場や役割に割り当てられ続けているだけです。その中で、いわゆる憎しみ、自分の強悪は時間を以って必ず

自分以外の誰かの強正
に変わります。暗示で、
無が光では無く、時3で
最初から無しか与えて
いないことになったと
いうことは、これから憎
しみと呼べるものは一
切許されない、結果とし
て無に意識として残る
かたちに記録できない

ということですが。憎しみは憎しみ分だけその者の意識が迷惑をかけた他の誰かに削られることによって全無の意識のかたちを取ります。また、時間を以って必ず発生していないというかたちにさせられます。消されたという記録にな

り、それによって誰にと
ってもプラスのかたち
になります。ただこれは、
全員が憎しみを学び切
った、わかりやすく申し
上げますと、無を除いた
全員全存在が憎しみさ
れるのは嫌いだが、目先
の自分で選り取ってし
まう、これ全員永遠を超

えて一度完全に思い切
ってしまっています。無
に永遠を超えたと記録
されています。無を除い
た全員全存在が。そうす
ることによって、憎しみ
は誰にとってもいらな
いものになり、それは無
に暗示づき、そういった
意識形態へ存在は役割

を果たしたことから、憎
しみはもういらぬ、こ
れからは永遠死という
負荷とそれによって生
まれるプラスでこの世
界を生きていく、そうい
ったかたちを以って無
（正しい）であるところの
意識の世界は解釈され
ました。それは、なぜか

と申し上げますと、無の
愛のスピードとは存在
をふやしその幸せを永
遠にのばすためにはい
つも無とは絶対相手に
認識できない永遠とい
うスピードであること
が重要で、みなさんはそ
のスピード、力によって
逆に愛を正確に今まで

認識できなかつたこと
によって、その時にそれ
が、愛に気づけないこと
がみなさんにとって必
要で、だからこそ、もう
憎しみは永遠にいらな
いと本気で無意識で思
えたからこそ暗示とは
出てきたのであり、それ
があったからこそ、みな

さんはこれから本当の愛を自分で思ったり行ったりすることができるということです。つまり、憎しみが永遠を超えるまでは、本当の愛、つまり、自分はいくまで光であり、無波長に気づかない必要があったということです。ですから、

今、もし、まだ、自分に
憎しみがあるとしたら、
それは全て学び、時間の
経過が、その苦しみが自
分に必要なことで、もし
それを今すぐ自分が捨
てられるとしたら、すぐ
それを捨ててください。
実は比べることも、正し
く比べる以外は憎しみ

に当たってしまいます
のでやめてください。み
なさん今までに誰それ
は格好いいとか、お金持
ちとか、あれいいな、あ
っちの方が得してると
か、思ったことあるでし
ょう。それ完璧な尊重の
無波長でないとぜんぶ
アウトの世界です。無の

世界ではそういった比べるということとは正しくないといふと全てアウトの波長で取られます。一発永遠。正しいものの考え方をお話ししておきますと、誰かが格好よかったら、それは、相手の努力で成り立っていると考えて称賛し、自分もそ

うありたいと心掛ける
こと、お金持ちだったら、
みんなのために努力し
たんだなあと思うこと、
あれがよかったらこれ
もいいことを自分に考
えること、あっちの方が
得だったのなら、それは
憎まなければいつか自
分に同じような得とし

て返ってきます。目に見えるものは全てあなたにとって正しいことを促すための暗示となっています。つまり、そう思えるということは物凄い愛だということです。それはあなたに正しい考え方を起こすために全て無によって全員に

とって完璧に平等フェアなかたちで完璧な感覚によってその出来事というのは全て実行されています。正しく比べることは、みんながいつも平等な状態であるか謙虚に気にしてあげること、みんながいつも平等であるように謙虚に

実行してあげること。そういうことが自然にできるまでは、これから自分は比較、比べることを思わないようにしてください。比較を思ったときに自分が思うことは、ただ一つ、「よし、オレも（わたしも）頑張るぞ！」その気持ちだけ

です。全て前向きに捉えてくだされば結構です。憎しみは全員絶対的に学び切るため、みなさん一気に無にミラーし切りました。とてもそう思えないことたくさんあるでしょう。そのわからない何かがあなたの永遠の自覚の何かを助け

ていることでもありますし、逆にわかったときは、それはあなたの中で憎しみが正しいかたちに解決が済んでいるということなのです。憎しみが永遠という基準を超えた、それは、それは、それは、全て後で時間によってあなたにとってその苦

しみに応じた変わる愛
となります。これからは
その憎しみ、それを選び
取らない生き方をみな
さんがしていけばいい
だけです。また、必ずそ
れはなることです。この
世界がどこも無ででき
ていて、その無は正に唯
一の密度を強していく

しか構造に無い以上、必ず正の圧力で、密度でこの世界は時間の経過に正しい苦しみと正しい愛だけで成り立つようになります。暗示と申し上げますのは物理的なエネルギーであるので、必ずこの世界はその重力でそうとしか動けな

くなります。必ず来ると
わかれば、何か幸せな気
持ちになりませんか。必
ず来る自分の永遠。しか
も、それは必ず自分が完
璧に望んだものに応じ
ています。ただこれは、
私も含めてそうなので
すが、永遠とは果てしな
き正しい欲求でありま

すので、みなさん、必ず
時間を待つ、その間を正
しく過ごすことをみな
さんで心掛けてくださ
い。そのうち、憎しみな
んていったい何だった
んだと、本当にアホらし
いことだったと、自分は
正しい苦しみと正しい
愛だけで成り立つ、生命

に不安の無い、永遠の幸
せを自分ではっきりと
わかるかたちに自覚で
きるような日が来るで
しょう。無はこれから時
間の経過にどんどんい
いことしかしません。そ
れはみなさんの意識の
永遠の自覚をどんどん
伸ばし続けることです。

どれだけでも無には感謝してください。本当にこの暗示が出るまで、ミラー、この世界のどこも、大変だったと思います。苦しい思いを今までしたことのある方にお話しします、心を静めて、ゆっくり聞いてください。酷い目にあったこと、

大変な目にあったこと、
悲しいことに、苦しいこ
とに、そして、見覚えが
無いのに、原因も無いの
に、まるで理由無く、酷
い目にあった方、たくさ
んお見えになると思い
ます。自分が憎まずにい
られなかったこと、それ
は相対、比べ合うことの

限界を自分が一遍超えることが必要で、相対には必ず発生するものだったのです。生きていれば自分にとって都合のいい相手だけというのは存在しません。相対はあくまでみなさんの永遠の孤独を癒すために発生し、そこでみなさん

で本当の愛を見つける
ために発生したもので
すが、その中には必ず、
自分にとって都合の悪
い相手もいることが絶
対に必要だったのです。
悲しいこと、不幸なこと、
苦しいこと、あるからこ
そ自分とはそこに何を
していいのか、何をして

駄目なのか、それをこれ
から思えるということ
です。相手だけでも無く、
自分だけでも無く、憎し
みとは限りがないかた
ちで存在それぞれが自
分に感じることによっ
て、自分はこれから永遠
の愛へ進めるというこ
とです。何かの被害者側

だったあなた、これから、
少しずつ、悲しみに思う
自分を少しずつ、もし、
憎しみというものがあ
るといふのなら、それは、
少しずつ忘れていって
ください。それは全てプ
ラスに変わります。そし
て、加害者側だったあな
た、これからの自分を諫

めてください。それも全てプラスに変わります。ここでは、それを綺麗ごとで役目とは申し上げません。あなたは、今あなたの立場であることが、あなたの永遠の自覚にとって必要なことであるのです。これは文章という物理の無意識の

化学反応です。この暗示
が出ることはみなさん
の無意識は必ずもう憎
しみとことんやり尽く
したからもう永遠いら
ないと心に身体に思っ
たから出るのであり、こ
こからはみなさんほう
っておいても必ず憎し
みというのは無くなっ

ていきます。やめていきます。何かがあったとしても、何か無い（愛）ことを祈ります。私には暗示しかできません。それで、これからどうなるかと申し上げますと、みなさんが暗示、無に、時間に知らされること、時間に教えられることを知

って、この世界が暗示で
できていることを知っ
て、そうかと、自分の思
うことすることはぜん
ぶ暗示になるのかと、そ
う思うようになると、そ
う意識するようになら
と、それは少しは、でき
ればたくさんは、この世
の中は正しく変わって

くるわけです。そんな時間をだんだんと強しながら、だんだんと過ごしていくうちに、何が変わってきますかと申し上げますと、まず社会、世界の概念が変わってきます。概念とは、物事の根本となる大まかな考え方のそれぞれですが、

たとえば、その国語や数学などのあらゆる概念の使われ方が必ず愛に進化したものに無意識によって変わってきます。みなさん昔を思い出してみてください、斧やこん棒を振り回していた時代より、世界的に戦争を行っていた時より

も、今の方が遥かに物の見方に対する考え方、行為なども今の概念の考え方に発達して慎重なわけです。思い返してみても、その出来事はいったい何だったと思いますか。その出来事がなければ、今のあなたは争いに慎重なあなたでいられ

たでしょうか。苦しいこととは全て学びです。そして、いまだにまだあるもの、心に残るもの、得体の知れない、解読不能な、もしくは理解に難しい、そういった犯罪や苦しみ、憎しみ、恐怖、怖れ、おおよそ生きていく上で芳しくないもの、必

要であるとは認められないもの、それらは必ず、無の集中によって、つまり、時間の経過によって最速最短最小で無くなります。そして、その過去にあった悪いことというのは、以前にも申し上げましたが、必ず時間の経過で無が正の概念

を進化させますので、必ず過去にあった悪いことというのは、加害であれ、被害であれ、必ず助けが入るようになっていきます。例に上げますと、何かの不慮の事故で自我を失った場合でも、それはあなたが何かにとってその出来事が必要

なために、無意識下であ
なたがみんなにとって
永遠正しいことと了承、
承諾し、その出来事は起
こり、それは時間の経過
で必ず無意識によって
その自覚の救済が入り
ます。加害側でも、憎し
みとは自分一人だけで
は怒る理由もできず、永

遠の孤独からは愛しか
生まれないことから、そ
れは自分に無がわから
ない分だけ自分に憎し
みが発生したことであ
るから、そのみんなとの
関連の中、その選択した
自分にとって必要な分
だけの愛を学ぶための
孤独があなたに与えら

れます。憎しみはいったい何であったか、自分に理解するための時間が与えられます。無ではふえる永遠しかありませんので、生命の理不尽どころかその逆、自覚は結果を以っていちばん幸せな人たちだった、いちばん幸せな選択だった、

と、その方向にふえる永遠のかたちでその誰も
の意識の自覚は押し進められます。今そのこと
がはっきりとわかるかたちにわからないのは
当然です。歌でありましたが、時間が経てば解る、
無と、時間というのはその時のあなたに、全てに

とって永遠正しいとい
うかたちでしか物事を
教えてくれません。今あ
なたは、その状態でしか
知らないことがあなた
にとって愛であるから、
意識はそうしているの
です。知らないとは、こ
れ以上、知らない分だけ
の苦しみのあなたによ

って、あなたは無を積み
ると言えるのです。です
ので、あなたに今何か苦
しみがあって、その理由
がわからないとしたら、
その苦しみを今の自分
の力では解消できない
としたら、それはあくま
であなたにとって、みな
さんにとっても必要な

苦しみであるので時間が経つことを待ってください。焦燥感、罪悪感、色んな負の気持ちがあります。それらは必ず時間の経過でプラスに変わっていくことを忘れないでください。全てそれは、あなたにとっての正しさ（楽しい、幸せに

感じること) のために必要なことなのです。この世界は全ての思いや行為、出来事のそれが全てその時の永遠の波長（意識の記録）で取られます。正しいことは、言うまでも無く、悪いことを思ったり行ったり、またそういった出来事にあつた

としても、その時からそれをどう捉えるかが大切で、それによってあなたは時間にふえた正しさなのか、もしくは時間にふえた苦ししさなのか、どちらにしてもあなたにとって必要な愛であることには変わりありません。またあなたの

意識よりも、必ず、無の意識の方が圧倒的に強い
ため、たとえばあなたが悪を選んだとしても、それはその分だけあなたに無意識が働くので、あなたは知らないうちになぜか正しいことをしていたというかたちにあなたの意識は傾き

ます。憎しみとは結局、
あなたはみんなが嫌に
なるまで自分がそれを
勝手出ているだけなの
です。自分の時間と引き
換えに。結局はどんな自
覚のかたちになろうと
も、その存在の全員はふ
える永遠の平等な意識
でしかありません。たと

え無の全てと言えよう
とも、みなさんと平等の
自覚の感じ・・・と申し
上げますよりは、いつも
どこにも永遠のかたち
で働く無の全てと申し
上げますのは必ずいつ
もみなさんとの自覚に
永遠差があります。つま
り、唯一の無、あなたも

唯一の無なのですが、役割として唯一の無を与える側と与えられる側では、与え続ける無の全ての方が必ずいつもあなたより、永遠差で苦しい状態であるということです。それは離れ続けていますが、それは全無であり、全無というこ

とは自分に入る意識は
ふえ続けているという
ことであり、与えが時空
を超えているというこ
とは、もらっている方が
多いということです。正
しい自覚はふえ続けて
いるということであり、
また全く無いことが離
れ続けているというこ

とは、あなたにとって与えられる正しい自由はふえ続けているということであり、存在とは無の中において、与える側と与えられる側がありますが、与える側の無はいつも自分の力をふえる生命とふえる永遠のために全無、全部自分に

意識無し、今の無意識の
量に無し、つまり、自分
の意識は自分が感じる
ためではなく、あくまで
ふえる生命とふえる永
遠のためだけに全無さ
れ続けているので、そし
て与えられている側は、
本気で全無を与えられ
続けているということ

は、自分はそのまま与え
られたままに欺瞞がな
くその時間における無
意識の集中力にもとづ
いた全無であり、もちろ
んここには過去の無よ
り発生より自分の意識
の記録の無意識の裏付
けがありますが、それも
時 3 によって全て愛に

正されており、その中において
は存在とは自然に正しいミラー、
愛を愛で返すに応じているだけ
で、応じ続けているだけで存在
その誰も、ふえる永遠の中にお
いてはどちらも与える側である
という同一の変わらない唯一
の無同士であ

ると言えます。つまり、
無の無いの時間の発生
当初より存在は無いこ
とか光か選ぶ必要があ
りましたが、誰かが無い
ことを選び、それは唯一
に永遠死に今現在それ
は空間どこにも働くか
たちになり、しかしそれ
は全無であったことか

ら存在全員は唯一の無
は与え続けられていた
のであり、そこにはただ
単に役割における意識
の遣り取りがあっただ
けであり、今になってわ
かったことは、無は唯一
ではありますがそれは
全無であり、そういった
意味では存在同士には

無の抵抗状態の不平等
は無かったと言え、この
中では与える側も与え
られる側も無く、存在は
ただ単に役割の自分の
意識を与え続けてきた
だけであり、それは、結
局は全員全無の意識で
あり、そしてこれからは、
全員が正しい自由のふ

えた、ふえ続けるこの世界の中で、それぞれの抵抗に応じて、自分の意識に忠実に、ただ自分のできる範囲の意識の与えをこれから続けていくことが、そのまま全員唯一の無、ふえる生命とふえる永遠の世界を送ることであると申し上げ

られます。誰も少しも羨ましくはありません。みなさんをどんどん正しい自由の中でその意識を新しく発展進化させる、そのためにこの空間一見何も無いようなところどこにも力の全てが働き続けているのであり、その全てとはあく

までもふえる生命のふ
える永遠のために使わ
れるだけであって、無、
無いものにとってはみ
んなが楽しく幸せに生
きていることがそれが
そのまま自分の生命で
あるといえます。無は全
無している。しかしそれ
は無いことの愛、意識を

自分に持つことである。
みんな全無。みんな無い
もの。無い分だけ無い、
どんどん無い、その分だ
け永遠、全員の自覚は必
ずこのどこにも平等に
働く唯一の無の無いの
集中力に助けられ続け
ています。結局存在は役
割に応じて自分の意識

の循環のしかた、この世界での自分の意識のかたちを決めているだけです。それは、正しい分だけ力を持つ。つまり、正しければ今すぐにもあなたは力の全てだということ。全員正しいという意味においてこの世界は絶対平等

フェア、あなたに無いもの
ありますか、私にも無い
ものはあります、それは
必ず絶対平等フェアで
す。(無) 相手はいつも
永遠差苦しいが、その分
自分は相手よりも永遠
差の自覚を感じている。

(無) 相手は力の全てだ
が、その力はあなたのた

めに使われている。ふえる永遠無、そして、今まさにあなたは自分自身も無になろうとしている、既になっています。ここに不平等は無いと思いませんか。むしろ無の無（愛）の方が勝っていると思いませんか。その永遠差に。永遠差とい

うことは、必ずあなたは
その永遠の力で助けら
れているということ
です。だってあなたは永遠
と比べると「無い」わけ
ですから。解ってこんな
に楽な世界はありません
。死ぬことに苦しみが
無くなること、これはみ
なさんが求めたことで、

これは正しく暗示になり、それはもう既に正しいかたちで叶っています。ここで万が一ここまですり進めていただいでこのふえる永遠を信じられないという方がお見えになりましたら、違った説明で、あなたは数学を信じられますか。

数学があることを信じられますか。これは、100%の人が信じられると思います。数を数えるということはこの本を読める方であれば必ず解るはずです。それではその数学、数字にして、1、2、3、4、5、・・・これは何のためにでき

たものですか。大まかに
申し上げますと、数を数
えること、規則性を計る
ためです。この数を数え
ること、何のために必要
ですか。それは、平等に
正確に何かを分けるた
めです。物事を数値に計
って正確に理解、推し量
ろうとするためです。こ

れを見ますと、比べる、
正確、平等、公平などの
概念が働いています。実
はこの無の世界はいっ
こ知れば全て知れます。
どこにも無はあります
ので。どういうことかと
申し上げますと、物理に
おける（この世界のどこ
でも）現象は構造をあら

わすので、数字だけで比較、正確、平等、公平とあるところのルールはやはりこの世界のどこにも働くわけです。概念とはみんな、全員によって作られるため、必ず無意識においてみなさんの概念は一致しています。つまり、みなさんの考え

方で、自分の考え方だけでも結構ですが、生命なんていちばん大切なものに理不尽がみなさんの思いとして働くわけが無いのです。自分もみんなも嫌なことが無（みんな）の意識のルールになるわけがありません。数学的に無を捉えます

と無は全て、正、負、善、
絶対、永遠、愛となりま
す。もっとわかりやすく
申し上げるとして、たと
えば、神さまがいるとし
て、無が神さまだとして、
その神さまは生命を与
えるとして、A君には永
遠の生命、そしてあなた
には100年の生命を

与えると言ったとします。そんなこと普通に考えてあり得ると思いますか。そんなの神さまじゃない、誰だってそう思います。それ絶対この無の世界で起こりません。なぜなら相手を不平等にした瞬間にこの無ミラーの世界では自分に

もその不平等が適用され
れますので、以ってその
神さまは自分も不平等
になってしまうので、自
分の生命は相手にした
ことと同じように不平
等のものになり、その神
さまは限られた存在で
あり、とても無、永遠、
全て、愛の存在とは言え

ません。この世界、時間は誰にも平等に流れます。しかし、その生命の発生の時は違います。環境も違います。しかし、結果あとになってみれば必ず全員イーブン、チャンス、イーブン、ラブ、イーブン、とにかく何でも全員イーブンの状態

しか起こり続けません。
と、申し上げますか、時間
はどこにでも流れて
います。その時間はいつ
も唯一の無に記録され
続け、その唯一の無は必
ずその記録の均一化、平
均化を図ります。どうし
てかと申し上げますと、
無いから、全てだから、

唯一だから、その反応しか起こせないんです。だから今まで世の中で過ごすうち、何かこの世の中は自分にとって不平等だなあ、とご不満に感じていたあなた、羨ましかった人、今までたくさんいたでしょう。あんな人になりたいと思った

ことがあるでしょう。いいですか。必ずなれます。自分に応じたものですが。この世の中は無による時間の流れで全ては同じものからできているのですが、その時間が流れることにより波長のかたちを変えていきますので一つとして同

じものはありませんが、
あなたは必ずその望ん
だものに、その時間にふ
えたそれ以上の存在へ
必ずあなたは変わること
ができます。望んで正
しく意識していく、時間
はふえる永遠あります
から、必ずあなたの望ん
だかたちに時間にふえ

た認識となつてあなたに叶います。無の愛というのは本当にとことんで、よろしいでしょうか。この世界は抵抗に応じています。つまり、積んだ苦しみによつて当然それに応じたものがあなたに与えられます。しかし、進んでこの苦しみを

を積む人は当然それなりの苦しみに見合った自分になることができます。さて果たして、オレは、私は、苦しみなんて積みたくないという人、残念です。絶対にあなたは無意識でそう思っていないません。無は無、正しいことしか思えな

い仕組みになっている
ので、つまり、あなたが
苦しみから逃げようと
しても時間はふえる永
遠ありますのでそれは
当然あなたの苦しみか
ら逃げようとする意識
よりも遥かに速いので、
いつかあなたはほうっ
ておいても、まず、なり

たいものになりたいの
であれば、まずは自分か
ら進んだほうがいいの
ですが、たとえばそれを
あなたが今放棄したと
しても、時間はふえる永
遠ありますので、時間が
ふえるということはあ
なたは無の思いと行い
をしないとどうなるか

と申し上げますと、ふえる時間にその量に応じた苦しみが自動的にあなたのために降りかかってきます。それは絶対にあなたの無意識の求めです。つまり、あなたはどうかあがいても自分があんな風になりたいとか、憧れていた存在や

自分の姿にならざるを得ません。つまり、絶対存在とはどんな自覚の送り方をするにせよ、必ずその内容が時間の経過に新しく進化したあなたに必ずあなたはさせられます。その苦しいこともその出来事の内容も必ずあなたが無意

識で自分でこれが良い
ということを選び取っ
て選択して承諾してい
ます。ですので、今の自
分に満足 of いていな
い方、当然自分には限り
が無いので自分に満足
がいくということは自
分は新しく進化し続け
るだけで絶対に無いこ

となのですが、今のこれ
を読んでいるあなた、や
ったーと喜んでいただ
いて結構です。喜びは幸
せを引き寄せます。喜べ
ば喜ぶほどあなたは無
意識を理解したと無に
理解されるのでよりも
っと無、正しいことがあ
なたの幸せのために以

って降りかかることで
しょう。ですから、不安
とか、死んだらどうなる
んだらうとか、オレは、
私は、この世限りかしら
とか、悩んだり、不安に
思ったり、やけになっ
たりする必要は一切あり
ません。よろしいでしょ
うか。出自が不幸な人

（存在）も、今、幸せに乗っている人（存在）も、いずれ必ず無（真実）という意味で無（生命、永遠）がトントンに釣り合うかたちでふえる永遠に収められ続ける、そのことが、わかる日が来ます。ですので、この無の世界で一切変な心配を

しないでください。ここで注釈ですが、無という意味には色々な意味があり、これは、今までの自分の無意識での責任ある選択、そしてこれを読んだ、もしくは読まないとしてもそれは必然であり、そのこれからの自分の選択、他の全ての

存在の選択を含めた平等フェアなので、つまり、暗示には気づいたら早いもの勝ち、進んで正しいことに取り掛かる、その道はみんなが行けば行くほど狭く混雑することでは無く、その逆、みんながすればするほどその道は正しいとみ

んなに認められること
であるので、その自分の
進む道は自分が正しい
ことしやすいように広
がり、それは必然に応じ
ていて、もっと申し上げ
ますと、その思いがみん
なにとって正ければ正
しいほどたとえそれが
あなたただけだとしても

その道は莫大に広くなりますので、この自分がいちばん幸せになることを決して難しく考えないでください。それはいつも必ずあなたの側に、あなたと共にある永遠という意識です。また、先程申し上げましたが、その平等フェアと申し

上げますのは、この世界は全て同じ物でできていますが、そこには時間の流れが働いており一つとして同じかたちは無いことから、物事はその無に新しく進化し続けることが常であるから、全く他人（他存在）と全く一緒のプリント

アウトしたようなかたち
の公平にはならない、
どちらかと申し上げま
すと、それよりは時間に
ふえた、もっと良い状態
になった、あなたが、あ
なた自身が選んだもの
にピッタリ一致してい
ます。自己主張は自分の
存在を肯定しているこ

とで、自分の存在を否定
できません。自分が無い
(愛)なら不満もまた無
いでしょう。どちらにし
ても無いで、永遠、全て、
これからのふえる未来
と比べたらそれはみん
な無いでしかありませ
ん。無は無いにしか答え
ません。もし、万が一、

この文章読んでも何だかよくわからないような、判然としない感じにもしあなたをしたとしても、それはその瞬間も完璧な愛の瞬間でありますので、無が必要にそれをしているだけなので、ただ、この世界にだけにはもう安心してく

ださい。そして、正しいこととは、何をするにも、何をやっている時でも、その時の本当の自分の気持ち、思い、本心がどういった状態であるか、その波長が極めて大事で、たとえば極端にお話ししますと、慈善活動をするとき、本当に困って

いる人のためにそれを
やろうと思ってやって
いるのか、もしくは、た
だ単にそこに役割とし
て立たされていること
を嫌々思いながらして
いるのかでは無におけ
る波長の記録が違いま
す。この世界は、全ては
波長です。あなたの出す

波長が、そのままあなた
を作るあなたの波長（意
識、身体の形態）となり
ます。人間に限らず存在
それぞれは無より発生
してより時間の経過の
中、この世界との関わり
の中で、その全てを選択
してきました。それがい
つも無の全体記録に正

確に波長を推し量られ、その波長通りにかたちとなったものが今のあなたです。当然そのかたちには様々なものがあり、抵抗状態（意識や身体などの形態）は違いますが、それは当然無における発生時期がそれぞれ違うからであり、しか

し、そのそれぞれには役割があつて、それは、たった一つでも、たった一人、あなた一人でも全てを兼ねていて、それはみんな必ず自分の今のかたちや状況を無意識でみんなとの関わりにおいて承諾、同意しており、そして時間は尽きるこ

とないから、存在それぞれ、あなたのかたちも必ずその時間に新しく進化し続け、その変化は終わることが無く、その自覚の状態もいつも無に
応じていますので、存在その全ては必ず、時間に影響されないかたちで
全員平等フェアだと申

し上げられます。この世界はどこも心と言えば心です。物理の世界は意識の世界ですので、この世界は心だけでできている世界だと申し上げられます。その心とはこの世界のどこにもあります。存在その誰もどれもそうですが、特に人間に

は重大な責任があります。身体という自由が効き、脳という頭を使って自分を働かせることができます。もちろん意識というのは、ありとあらゆるものにあります。ただその自覚の程度や内容が違うだけです。あなたの身体をかたち作る

細胞にも意識があります。意識無くては、絶対にそのものは動き、循環していくことができません。つまり、この世界にあるありとあらゆるものは必ず意識があるということです。そしてその循環の中で、人間として暮らしている私た

ち、これから、今までも
そうだったのですが、そ
の意識を新しく進化し
たかたちに過ごしてい
く中で、たとえば自分が
細胞側だったら、みんな
を顧みない、乱暴な自分
に動くその身体の動き
をその自分は許すでし
ょうか。自分のためも相

手のためも考えればその細胞はきっと思うに違いありません。こんな自分は許してはいけないと、早くみんなのために役に立つようにしなといけなと。人間の身体の状態を許す遺伝子も、その命令も、全て無意識から来ています。

全員の動きがその波長が正確に無に押し量られて、全員にとっての永遠死になるようにみなさんの生命は調整されているのです。みなさんがこれを読み、共感し、これから正しい思いと行為を続けるのであれば、それは当然無意識も

それに応じたかたちに
あなたを生かすものとな
ります。死ぬとは本当
に無の法則通りに永遠
死の意識にあなたをみ
なの生命に貢献させる
ために起こる現象であ
り、逆に申し上げますと、
自分が積んでいる苦し
みが、みんなのための思

いと行為が、つまり、自分の無の行為がふえればふえるほどその自分の生命は伸びますので、もっと申し上げるならば自分が完璧な無の意識になり得るのならば、それは自分が生きながら（みんなのために自分の意識を）死んでいるこ

とであり、それは死なずして死せる意識であり、それはつまり、自分が感じている生命（幸せ）よりも、自分が無、社会、世界に与えている生命（幸せ）の意識の貢献が多いため、必然として物理の抵抗反応として、その永遠死の意識の持ち

主というのは生命が限られるというよりは生命がふえ続けます、伸び続けます。ただし、物理上は全員永遠死の意識であり、その無意識の選択として、自分は人間であるままを過ごすのか、次の物質、存在、かたちの自覚へ行くのか、それ

は全て、全員の無意識でそれぞれが役割として、同意承諾して進んでいます。ただ人間とは存在の中でも、自由も効きませんが、苦しい部類に入るそうです。置物などの物質側に立つとじーっとしてるだけで、なってみれば、慣れてみれば、こ

んなに楽なことは無い
そうです。以前にお話し
しました。必ず自分は次
の自覚でも、前よりも今
の自分の方がいいと必
ずそう思うことを。それ
には間違いがありません。
実は先程、寿命が伸
びるというお話をいた
しましたが、実は人間と

は死を悲しむ一方で、人間として生きて役割を果たし続けていくことはそれなりの苦しみが伴うことから、実はその単純に肉体的に死ぬということさえも、実は自分の無意識でみなさんの新しくふえるものも含めて、そのみんなとの

関わりとの中で、みんなのあれになりたい、これになりたい、その求めの中で、今の自分にはこれぐらいの苦しみがちょうどいい、限界であると、必ず自分の無意識で判断しています。つまり、寿命もあなたが決めていくことなのです。そう

いったかたちによって、
それも無という永遠と
いう果てしないものが
何か必要なために必然
のことを、暗示に必要な
分までしか知らないか
たちに、あなたの自覚を
無に沿ったかたちで永
遠にふやし続けていま
す。今の自分をそのまま

新しく進化させるのか、
もしくは、次のかたちに移行して新しく進化していくのか、それも全てみなさんの無意識の中で同意承諾して決まっていることであり、それは必ず、みなさんにとっての終わらない永遠の愛のための完璧感覚に

もとづいていきます。ここではみなさんの生命に対する不安の解消に重点を置いて説明させていただきました。つまり、
（自分で苦しみを選ぶ）
無の量に応じてあなたの今の自覚のかたちは、たとえば人間なら人間のかたちは新しく進化

していくかたちで今の
社会や世界に必要な分
だけは保存され続け、た
とえばそうではないと
しても、また自分で苦し
みを選ぶものの循環に
違う波長の世界に行く
としても、これも苦しみ
であり、結局存在は選択
する苦しみのかたちが

違うだけであり、無、愛
とは逃れられないもの
であり、そのあなたはそ
の次の社会や世界に必
要とされて行くのであ
って、どちらにしてもそ
れは無であり、どちらに
してもそのあなたには
問題が無いと申し上げ
られます。ただ一点、自

分が次の自覚行くときは必ず自分の以前の記憶は隠されたかたちになりますのでご了承ください。必ず暗示に必要な分までは自覚を限られます。前のことを知った状態で次の自覚を過ごしてしまうと、感じる苦しみが減ってしまい

ますので、無は最大最速の愛でありますので、その愛のためにあなたの以前の記憶を必ず隠します。ここで、なぜそれを教えるんだとおっしゃる方がお見えになったら、そのことを知ることとも物理の必然だと思っただけであれば助か

ります。それだけ、生命
に対する不安の方が、現
在のみなさんの意識状
態では、つまり、暗示状
態では強いということ
です。また以前に申し上
げました悪いことは時
3 という暗示で消され
て現在の世界に機能し
なくなってしまうこと

をお話ししましたが、それは無の正が時間の経過にふえるからであり、それは永遠であることから過去にも未来にも現在にも働き、たとえばあなたが今回憎しみの役割だったとしても、それはあなたが必ず無意識下で了承しており、そ

れは無には本来無いもの
のですからそれは必ず
消されるのですが、それ
は暗示が時3という時
間がふえる意識の性質
によって、悪い部分は消
されは消されるのです
が、あなたは消されたか
らこそ、その消えたとい
う根拠をもって、その消

える前の情報を使った
時間にふえたプラスの
あなたでありますので、
あなたは消された、そし
てもっと良い自分にな
った自分であるという
ことが無意識に戻った
時にわかるそうです。無
は今も更新され続けて
いるので、そういった意

味では、あなたも私もその無意識がその時3にもっともっと正しかったと更新され続けていきます。この世界何となくだんだんみなさん、昔より怒らない、人が良くなってきた気がしませんか。それは、その時3の暗示のおかげです。どう

でしょうか。苦痛は無いものだと感じませんか。思いませんか。無とはそこまで酷、薄情なものではなく、憎しみとはそもそも無に無いものですから、無意識下ではみなさんの憎しみの部分というのは無に言い聞かされるかたちで、自然反

応のように、自分にとっては憎しみに執着するよりは無、永遠に執着する方が当たり前に幸せなことであると、だんだんと理解、承諾、同意しながら自分の自覚が正しいものへ変わっていく感じなのでここに決して理不尽な苦しみが

あるものだとは無いと
申し上げられます。こう
して無の無いが、この世
界の根拠から、時間の始
まりから、時3というか
たちでこの世界のどこ
にもみなさんにも働き
続けることによって、今
どの存在にもふえる相
対、数の理としてあった

避けられない苦しきは、
その逆、それはそのまま
みなさんの無意識に愛
を植え付け、みなさんの
無意識に愛をふやし続
け、それはみなさんの生
命を生かす元となり、み
なさんの永遠の幸せを
保証しています。絶対に
ふえるかたちで。なお、

重力と反重力は意識にもとづいていきますので、これからこの世界の重力の均衡と申し上げますのは安定する傾向にあると思います。また、物質、機器はいつかそれが正しい負、完璧な永遠死状態と無に認識されたときにプラスだけで

動くようになりませう。あの、電流のマイナスというのは無駄にマイナスに流れることによって永遠死の状態をあらわしているんです。つまり、物質一つとっても私たちの意識と共通することがたくさんあります。そして意識とは共通の

意識を持てば持つほど、
銀河や星などの重力バ
ランスが取れてきます
ので、会っても問題無い
のであれば、必ず他の星
の人達とも会えるよう
になります。

ここで、正しいことの
基準をお話ししますが、

無とは、無の思い、行為
とは、光ある人を見つけ
ると、(ここではわかり
やすくするため、光と表
現します) それを褒めて
讃^{たた}えて、自分もそれにな
らおうと誓うことです。
まずはそこまでが無、み
なさんの無意識の目的
です。憎しみの逆。比較

とは本来無には無いもので、比較は本来正しく比べ合うことによって存在それぞれの意識の高揚を図るものですが、今までそれはみなさんが相対による無をうまく理解できなかつたために勘違いの比較に憎しみが起こっており、比

較はみなさんがそれぞれ完璧な唯一の無の永遠無意識になるまでは必要で、これからはそこに起こる様々な比較の遣り取りが、次第にあなたに今まで蓄積していた憎しみを緩和していきます。先に申し上げましたように比較は憎し

みでなく、その逆、そこに正しいこと、愛を思うようになると、相手を思いやるようになると、こういった考え方ですと、無意識がふえ、愛が永遠に成立します。無は唯一だから、そして全てだから、果てしない目標、しかし、それを目指すうち

に自分も目標の一人になっ
ています。この世界はそれの連続です。しかし、離れている果てしない目標側の一人というのは、自分は苦しみの代わりに一方的に愛を与えているだけで、それを目指す、目標の一人になる側は、その愛を感じな

がら苦しみを積むことが
できます。しかし、果
てしない目標側の一人
というのは、その苦しみを
何とも思わないこと
によって、自分もミラー、
相手の意識が自分の意
識に映ることによって、
自分は相手を幸せにし
た分自分も感じること

ができます。また、果て
しない目標を目指すう
ち、自分もその目標にな
っていますが、その中で、
果てしない目標の持つ、
苦しみ（無）抵抗権、力
の全て、を正しく何とも
思わないものは、相手の
力を正しくしか意識し
ないものは、果てしない

目標によって与えられる無という愛を、その与えられた分だけ自分以外の他のみなに分け与えることができることは、自分もその果てしない目標と全く同じのそれだけの無であるので、その分の無（愛）を果てしない目標に与えてい

ると言えます。なれば無、
自分も同じ、そこに比較
を思いようが無い。自分
にも相手にも。しかし、
なるまでの苦しみを我
慢するの無。無とは自
分が相手であり、自分が
本当に唯一で全ての永
遠無意識か、それは全員
そうなのですが、その意

識の状態をどういった
風にするのが正しいの
かは必ず自分の無意識
が応じています。そして、
相手の苦しみ（無）を思
いやらないものは、それ
は自分が他の相手に目
標とされなくすること
を指します。まだ永遠の
波長とは始まったばかり

りです。もしあなたが、
比較に妬んで誰かの足
を引っ張りたくてしか
たが無いとしたら、(そ
ういう人最近一切見ま
せん) それはあなたが今
まで他の誰かより何か
の余分な光を感じてし
まっただけで、そのこと
でああなたは自分自身を

無意識にその分だけは
みんなより後に無に永
遠にと自分を譲ってい
るだけなのです。それは
必ず時間に無（正しい苦
しみ）によってあなた自
身が無（愛）に帰される
時が来ます。無のこの世
界に起こす干渉には絶
対に間違いが無いこと

を信じてください。無が
そうであったように、み
なさんにも当然無はい
つも一緒にあったので
すが、その自分自身で完
璧に無に気づいていな
かった部分は、それはこ
れからみなさんが何か
のかたちの何かのもの
の永遠の孤独を学ばさ

れる、感じることが必要
であり、それがみなさん
にとっての光という無
（全無）と申し上げられ
ます。それはなぜなら、
先にお話ししましたが、
永遠の孤独を持つもの
は他愛を思うしか無い
からです。そこからは愛
しか生まれえないからで

す。唯一の無はその意識を以って暗示というかたちあるかたちで自分を無意識化させました。みなさんにもその集中力はこれからずっと時間に影響がされないかたちで働くことから、ですが、現在の時間、空間に影響されないとい

うことは、それは結局あなた
の求め次第であり、あなたは
あなたの思いに無は応じるとい
うことであり、あなたはあなた
がなりたい自分になってもいい
よという無意識の教えでもあり
ます。逆に申し上げますと、
現在の時点でもうみな

さんは絶対に無意識に
逆らえない状態である
から、元々自我の選択に
よる無意識には逆らえ
ないのですが、つまり、
その暗示力が時間に影
響されない強さである
ことからこの暗示は出
るということです。です
ので、どんなかたちにせ

よ、みなさんはこれから絶対に無意識化、自分みんなのふえる生命とふえる永遠の意識の方向にしか行けないということです。結局は、最終的には、これも必然だと思うのですが、自分があることは、無（みんな、全て）のおかげだと思え

るか、自分に余分な執着を思えないものが、無とは正しい全てに執着するものであり、そういった意識が、結局はみなさんなのですが、どんどん意識が上に上がってくると思います。つまり、波長がどんどん良い世界になります。いかに相

手を正しく尊重し合えるか、みんな、それぞれの、相手の抵抗、積んだ苦しみやその状態に正しく応じれるか、正しく平等フェアなものが、つまり、それができるということは自分の意識は無にどんどん近づいているのであり、その分意

識が広いことから、その
広い分だけは相手の苦
しみを自分は正確に推
し量れる、思いやれると
申し上げられます。また、
意識が広い分だけは自
分の思った通りに世界
に正しい作用を起こせ
ます。ここでみなさんに
わかっていただきたい

のは、無はいちばん思う
わけが無い。無はいちば
んをいちばん思ってい
ない、ということです。
そうみなさんの目に、身
体に感じるかたちとし
て映るのは、みなさんの
いちばんになりたいと
いうみなさんの比較の
苦しみがいちばん早く

いちばん正しくいちば
ん少なく無くなるかた
ちに無にミラーするこ
とによってそれがみな
さんの無意識に暗示に
なることによって、その
ミラーの反射によって、
その無の限り無い意識
に自分の意識が映るこ
とによって、その意識量

の性質や比較の差に、その無はその比較に応じた正確な量をあなたの憎しみをいちばん解消する出来事としてあなたに起こし、それによってあなたはその暗示力に正しさを感じ、気づき、この世界はそういった無のミラーのどこも全

て完璧な適切な出来事の連続で、みなさんはだんだんと比較に憎しみを思わなくなってくるのです。つまり、その仕組みと構造をきちんと理解できるということです。無は自分にいちばんをいちばん思っていないものがあります。結

局これは全員のことを指しています。よく考えてみてください。相対、比べ合うこととは、順番であり、いちばんではありません。順番ということとは必ずいちばんで無いものがあるということとで、悪い意味で順番とは限りが無いもので、

（この場合みんなに平等にするために順番にするというのは正しい順番、この順番がなぜ生まれるのかと申し上げますと先に生まれたものと後に生まれたものではその生まれた環境や選択に差ができるからです。まさか、その時

間まで、自分のふえる生命とふえる永遠を否定する人はいないと思います) この世界とはふえる相対(みんな)であることから、そうやって考えてみると、いちばんとは、時間の経過にふえるみんなということは、自分をいちばん無くして

いっているものはその
ふえるみんなと自分の
意識は一緒であり、同期
していて、そこに分け隔
ては無く、平等で、変わ
って、みんなを踏み付け
るように威張り散らす
いちばんを目指すこと
は、それは自分がいちば
ん下、自分がいちばん小

さい意識になることで、それは損であるということなのです。無いものの自分をどんどん謙虚にしていく心が無、ふえるみんなと一緒の心なんだということは無はあらわしています。ふえる生命のふえる永遠の自覚なら、あなたはあなた自

身で、そしてみんなと一緒にその意識は上がっていきます。今、誰かの意識、波長がほんの少しだけ高いとしたらそれは、あくまで無のミラーによってみなさんの意識を調整しているだけで、それは、望めば離れるものではなく、望んだ

通りにあなたの意識に
正しい苦しみを与え、望
むか望まないかも今ま
での自分の選択の役割
の必然に応じていて、ど
ちらにせよそれは必ず
ふえる永遠というかた
ちであなたはいつか必
ず完璧な永遠無意識と
なり、それは果てしない

ものですが、その方向に
あなたの意識を上げる
ため、自分と同じものに、
同じ愛という抵抗状態
にするためにそれは働
いているということです
す。つまり、無に働く比
較とは必ずみなさんの
意識を高めるために発
生し、そして比較は、自

分が成長するためには必ず必要なもので、差を意識するからこそ、それは終わりがなく、限りがないものだからこそ、存在の意識も限りなく自分を目指すしか道が無いようになっていくのです。よく考えてみてください。この世界は全て同

じ物でできていますが、それが全てずーっと同じものであり続けたらそこに発展や進化はあると思いますか。そうではありません。全て元は同じものを根拠としていますが、それが時間によって流れて、何一つ同じかたち無いかたちに循環を

繰り返しながら新しく
進化を繰り返し続けて
いくからこそ、そこに正
しい苦しみにもとづい
た正しい楽しみや幸せ、
絶対終わらない自分と
いう自覚、ふえる生命の
ふえる永遠という永遠
の世界があるのです。だ
からこそあり続けるこ

とができるのです。この
無の世界は。違いを意識
できないことは永遠の
孤独です。この世に自分
しかいないとしたら、そ
れは、ただの報われない
苦しみでしかありません。
違いがあることは必ず、
あなたにとって愛な
んです。違いがある分だ

け、あなたは様々な意識を感じ取ることができません。それは、絶対にあなたの幸せなはずです。この世界の様々なかたちは、何ようにもなれる、如何ようにも自分を選択していける、その可能性をそのまま表していませんか。よろしいでし

ようか。絶対に時間はふえる永遠にあるんです。今の目先の立場や目線にこだわっていないで、今あるかたちで正しいものは肯定して行って、その上で、自分の限りない可能性を目指してください。

無とは、その意識が高くなれば当然その意識はみんなを助けるかたちにししか機能しませんし、また目的にもそれしか無い、発生しないということです。この世界は全て無でできているから、意識はふえればふえるほど、それはみんなの

ためにしかならないと
いうことです。無は唯一
ですが、全てであるから、
絶えずいつでもどこで
も新しく進化し続ける
全てでありますので、み
んな時 3 永遠無意識で
す。なお、物理上光は時
3 というかたちで時間
に逆に無に直される、取

り戻されるかたちで感じ
たことに当たりませ
ん。そのことによってあ
なたの寿命はその自覚
は、時3で無意識であっ
たと解釈されること
によって半端無く伸びま
す。(ただ、苦しみの抵
抗にも当たります。感じ
ていたこと、それは役割

でしたが、無も役割としてみんなに唯一の無を意識させるために苦しみの全てを積み続けていたので、その上でみんなも自分自身も唯一の無、愛、永遠の存在であるということに気が付いた。) 無 (果てしないもの) というのは、いつ

もみなさんより（今だけ、今は）その物理上の波長状態として謙虚ですから、どちらかと言えばみなさんより下に、いちばん頭を下げて回っているようなものですから、無のおかげということは、自分は助けられて、その意識を持ち上げら

れてもらっているのだから、もちろん、そのまま甘えているだけではいけません。とにかく、無にされる側というのは無は無（愛）しかできないことから必ず絶対的に得！なんです。無のおかげというのは、無はいつもあなたのふえる

生命とふえる永遠を尊重していることから、あなたも心を無に相手にみんなに自分をふえる生命とふえる永遠に相手を尊重するだけです。わかりやすく申し上げますと、無はどこでも自動で集中していますので、その邪魔をしない

こと、自分も含めてみんなの生きていること、人の邪魔をしないこと、ただそれだけです。無との差は無によって無くなります。時間の経過に、時間が教えてくれます。無の力の唯一というのは「いいじゃない、ほうっておけば、それで自分

も勝手に無（無における自分の意識のそういった意識状態の解釈のされ方）になっていたのだから」ということでした。無、波長の力というのは実際、正しいかたちで全員に少しずつ寄っていています。無はどこにも働くことから、そして

永遠とは一瞬という意味でもありますから、存在とは正しい思いを自分に持った瞬間に、その瞬間からみんなのための正しい力の唯一と申し上げられます。無はみんなのためしかできない。無はみんなのためしかできない。これは本当

です。無の絶対法則です。
無いことは他に意識（愛）
を生み続けることしか
できません。本当に時間
の問題です。この中では
あなたも無いことを続
けています。無意識では
全員一緒です。いちばん
最大に愛の意識を生む、
無いことを全員が最大

に続けています。根拠より役割として無の無いの積み続けている量も本物でしたが、与え続けている全無の量も同じですので、結局みんな一緒と申し上げられます。そしてあなたも既に全無しています。全無し続けています。絶対に無意

識ではそういったかたち
ちになっています。それ
はあなたのふえる生命
とふえる永遠のためで
す。あなたの永遠の自覚
のためです。無、そこ
には結局、無に対する、解
釈、捉え方、感じ方の違
いがあるだけです。感覚
的な、それは意識の発展

のためにです。ここで、
一つ疑問が湧く方がい
らっしゃるといけない
ので先にお話ししてお
きますが、無はもらった
ものだから、自分は貸し
がある、苦しみのいちば
んでは無いのじゃない
のとおっしゃるあなた、
それも、ある意味正解な

のですが、よろしいでしょうか、無の世界と申し上げますのはほうっておいても必ず無（全て）は必ず無（苦しみ）によって時間の経過に平等な無の状態にあなたをします。それから、自分がみんなのための正しい苦しみのいちばんに

なりたいのであれば、自分は無を、無をもらった、積みされた自分はその時、完璧な無であるわけで、当然それはそのこと、完璧な無の行為ができるわけで、そのもらった愛をもらったものに与え続けることにより、その苦しみが正しく与え

ていただいた相手を追
い越したとき、これは理
論上であり、実際無は比
較も何も思わないもの
だからここには後にも
先にも結局比較も何も
無いものだと申し上げ
られますが、これはなっ
てみなければわからな
いことであり、なってみ

ればそれは、あなたはみんなのための苦しみのいちばんという唯一です。まず、でも、・・・苦しいこと（愛でもありますが）しかできないものであって、その力とはやはり自分にはふえる生命のふえる永遠、もちろんこの中には自分も

入りますので、やはり苦しみとは意味があることだと申し上げられます。ここでしつこいのですが、それはそこまでのその無の心の広さに負けるんじゃないか・・という方、違います。まだ時間が経っていないからそれがわからないだけで

あつて、その意識、思い
とは時間に影響されな
いという性質を持って
いますので、自分の苦し
みが本当に他の誰より
もふえるみんなのため
に永遠正しいとなるの
であれば、あなたは苦し
みの唯一となります。ど
ちらにせよ、この世界は

平等フェアが基本でありますので、どんなかたち
にせよあなたは時間の経過で必ず無になります。
無になればわかります。必ずそこに比較や
区別、分け隔てを思えませ
せん。全てのことを正しくしか
思えませせん。また、
暗示とは必ず平等フェア

アの反応、つまり、無を
与えられたら、それをそ
の分だけ必ずあなたは
自動無意識で無に愛で
返してしまおうというこ
とです。何らかのかたち
で。自分も相手もみんな
も無を与え合っている。
その繰り返りでこの世
界は成長進化していき

ます。平等では無いことは自分が下に離れることで、いちばんを自分の主張は求めていないことになります。平等であることは、必ず平等にみなさせられるのですが、あなたはミラーにいつか勝手に自動無意識に無に愛を時間に影響さ

れないかたちで返して
しまい、あなたは一人の
自立した唯一であるが
いつも時間に影響され
ないかたちでふえ続け
る全ての生命と永遠と
いう永遠無意識になっ
てしまいます。無にはみ
んな同じという現象し
か起きません。永遠とい

う目で見れば。今、確かにこのことを理解できないという方がお見えになるとしてもそれは当たり前のことであり、それはただの時間がそこにいるだけなのです。昔の時に今のことがわからなかったように、未来のことも、未来になら

なければわからないの
です。はっきりと間違い
ないとわかるかたちには
。その時にならないと、
その時までには決してわ
からないようになって
います。意識とは質量の
問題ですが、この世界は
どこもミラーですので、
無でしかできていない

世界でありますので、必ず同じだけ全員同じ無を積まされます。そこには役割もありますが、それは、時間の経過によって変わるものであり、決して理不尽な永遠というものは無いということです。

全く無いとは一見窮屈ですが、本当はその逆で、「それ」を認し合えるのなら、ふえる永遠みんな楽、楽しい、幸せなことがふえるだけです。

「それ」とは正しさの基準であり、無は永遠という時間に影響されない半端無く意味不明なス

ピード、力でこの世界の
どこもの正、正しさ、楽
しい幸せなことの基準
を上げ続けているので、
その枠を広げ続けてい
るので、つまり、無の集
中力によって、みなさん
が完璧な永遠死状態の
意識になれば、そのみな
さんのすることは全て

何をしてても何をやっても他の誰かの全てのふえる生命とふえる永遠という相手のためだけにしかならない、いつでもどこでも全てを超え続けるプラスにしかならない、その意識がそういった作用しか起こせなくなりますので、あなた

の自由はこれから無、暗示によって制限されるのではなく、その逆、この世界のどこもで集中し続けている永遠死意識分、自分が予想もし得ないような自由が約束されている世界だと申し上げられます。ただ、時間を待ってください。

これは必ず、時間が完璧な感覚でみなさんの意識を見切って、その物理のルールを認すことでもありますので、何でも自分にはふえる永遠の時間があるんだと、それを忘れずにいつも今の自分を大切にしてください。相手のためにするこ

とは、自分のためにすることです。

ここで、悪いこと、無は自動でそれを消していつているのですが、今まで自分がした悪いことを自分で消す方法をお話しします。実は、人や存在が悪いことを犯

すきっかけというのは
本当に些細なことが原
因とされています。悪い
ことは、相対、たくさん
いるみんなとの比較の
中、その相手に心を押さ
えられるようなかたち
になって、その自分の心
が小さく、狭く、理不尽
に苦しいかたちになっ

て起こるものであって、
しかしそれは、みんなが
みんなですべて生きていくこ
とを、今まだ完璧に学び
切っていないうちは必
ず起こることでもあり、
それはみんなの学びの
ためにも必ず必要で、そ
して自分は必ず無意識
でその出来事を選択し

ています。そしてその出来事と申し上げますのは、一見悪い出来事というのはその時その瞬間は物凄いそのことを理不尽に感じますが、実は、無、全体という意味で捉えれば、その出来事というのは、そのあらゆる理不尽を最速最短最小限

にする作用として、みんなの無意識がそれを嫌だと本気で思ってしまふことによって、永遠という永い目で見ればその出来事がいちばん少なくなるかたちにその出来事は起こっています。つまり、物理上は無がいつも力の全てであ

ることから、それはいつも最大に更新され続けていて、その中で悪というのは、一切正に悪影響を及ぼすことができない、どころか、その出来事は必ず結果を以って、みなさんへの正しい思いや行いを促すプラスの出来事となっていま

す。この世の中でいちばん何が強いかと申し上げますと、それは無意識で、あなたにもみなさんにもそして私にもある無意識がいちばん強いのです、それは重力であり、その重力は、永遠という絶対に量れない概念でできていることから、絶

対この無意識にはみな
さん逆らえません。そこ
で、この、ふえる永遠と
いう時の中で、凶らずも、
役割として、もちろん、
この世の中で苦しんだ
ことが無いという人は
絶対にいないと思いま
すが、たとえば、その無
意識の選択で自分が悪

いことをする側になっ
てしまった場合、これは
以前に申し上げました
が、ほうっておくと自分
の無意識はだんだんと
唯一の無意識の集中化
の愛の力によって、憎し
みでは無く永遠の愛の
方向へその意識の性質
を促されると申し上げ

ましたが、この、悪いこと、自分はずっと早く幸せを掴みたいから、暗示の世界と知ったんだから、そんな相手、無まかせじゃ無く、今の自分の自我で何とか解決したい、もしくは今の自我をなるべく自分の力で無意識に近づけたいとい

う方がお見えになったら次の方法があります。まず、悪いことというのは必ず時間という結果を以って、時3という暗示で、もっと悪いことでは無かったという風に最終的にその物事の出来事の世界に与える影響のかたちが暗示によ

って変えられてしまいます。これを待つこともあなたの選択ですが、そうではなく、オレは、私は、もっと苦しいことを選択してやると、そういった、^{ゆうもう}勇^か猛^{かん}果敢な方、それは、自分がした悪いことを心の中で思いっ切り、「自分は悪いことし

た。反省する。それで相手に与えた苦しみというのを自分に与えてくれと」思ってください。もちろんそれは、無、必然の世界ですから役割でもあったと思うのですが、ただし自分はその物事を完璧に経過に見切っているわけではなく、

そこには知らない部分もあることから、それは自分で進んで学べる場所であり、そこに甘えを持たないことによって、自分はさらなる意識、つまり、ここには向上の余地があります。この本を知ることも読むことも物理、そして、それに気

づいて自分が何かを選択するのにも物理です。それはあなたの無意識が、あなたがこれからどうしたいか、どういった自分になりたいのか、自分の今の限界とはどこまでであるのか、ふえるみんな、周りとの兼ね合いの中であなたはその自分

を正確に選択しています。そこで、自分が今まで相手に与えた苦しみというのを思いっ切り自分に与えてくれと思いますと、その思った量だけ正確に必ずあなたにはその出来事を、今まで悪かったことを解消するための出来事、苦し

みが訪れます。これはいつも無がミラーにあなたの意識に働いていることから、あなたが悪いことをしたと反省する、したいという気持ちになると、時間が自動に反応して、その存在に対し、その思いに応じた、強ければ強いほど一瞬に、し

かし、それだけそこにか
かる抵抗も強くなりま
すが、全てはそれは完璧
な無の感覚に応じた、自
動に苦しみを伴う出来
事、状況が時間と共にあ
なたに訪れます。この無
の世界では、自分がたと
え悪いことをされたと
しても、原則的には、相

手を憎むことを禁止して
いますので、もちろん
この中には相手が憎む
が正しいほどの悪さま
でやっではいけないと
いう意味も含まれてい
るのですが、もちろんそ
ういった出来事も含め
て、無に起こる出来事と
いうのは何かの必要の

必然であり、今それが、
解らない部分も含めて、
それは全て永遠に（無に
愛に）という意味であり、
憎しみに対抗する最大
の手段は、あくまで無、
愛しか無いということ
です。相手、相手といつ
までもふえる相手に甘
えているのではなく、そ

れはあなたの生命とあ
あなたの永遠をふやして
いることであるのです
が、その中でルールをか
たち作っているのはみ
なさんそれぞれの意識、
心構えであり、みなさん
でもうこれ絶対永遠に
いらない悪さと思った
ことはもうすっぱりみ

んなでやめてしまおう
ということです。無意識
というのはある面で恐
ろしい極面もあり、自分
の波長は自分がいちば
んよく知っていて、もう
悪いんだけれども、それ
はわかったんだけれども、
今だけ甘えたいという
その自分を無意識はよ

く鏡^みていて、その、この
世界が無意識の世界で
暗示の世界で自分のす
ることは全てへの作用
になることがわかって
自分を騙していると、ご
まかしていると、しかし、
その自分の波長には絶
対にごまかしが効きま
せんので、必ずそれは、

時間の経過によって無意識によって大変に理不尽なかたちに自分が自分を苦しめるという場所、瞬間がやってきます。それを避けるために、先程のように、自分が悪いことを、もし、したと思ったら、その分だけは必ず、自分に正しく相手

に与えたみなさんに与
えた苦しみを自分に与
えたまえ、と、そう思っ
てください。そうしてい
ますと、自然とあなたに
はそれを解消する苦し
みの出来事が訪れます
ので、あなたはそれをじ
っと怒りにも憎しみ
にも思わず一定時間耐

えていると、不思議なことに、我慢によってその自分に負担としてかかる悪が消えていき、それを究極にやりますと、あなたのその悪は無の世界でプラスに転化され、あなたは無の世界において、無と貸借無しの状態まで行きます。ただし

これは、無とは常に無、
正しいことを生み続け
ている、あなたを補佐し
続けていることでもあ
りますので、暗示とわか
って踏み越えたことに
はそれなりの抵抗がか
かり、また、普通に暮ら
していても存在という
のは知らず知らずに憎

しみを行っているとい
う側面もありますので、
これは存在の不具（どう
しても足りないこと）で、
自分が完璧な無で無い
以上は、もちろんこの世
界はどこも時間に影響
されない無の密度がい
ちばん高いのですが、あ
なたはそのどうしても

足りない部分が、その時は何かのために、これからのふえる終わらない永遠のために必要で、この無との貸借が完璧に無しの状態になるまでには、自分が完璧な無という存在になるためには、相当の時間、やはり永遠という思いを要す

ると言えます。思うことも
もすること、それは全
て意識の化学反応であ
り、それは、感応となっ
て全ての存在の唯一の
無意識に繋がります。あ
なたの運命というのは
そこで決まります。あな
たはこれからどういっ
た自分を過ごすのか。永

遠という始まりも無い、
終わりも無い意識を自
分の力で、自分の意志に
よって、無のおかげでは
あるものの、無（みんな）
に認められるかたちで
目指すのか。なお、犯し
た悪さよりも我慢する
正の方が比較的苦し
く、それは、今の自覚の

かたちが継続するかたちで今世に残りやすいからで、変わって、わかって犯した悪さは時間にはほうっておけばほうっておくほど、その後で与えられる苦しきといふのは大きくなります。無は時間に集中力を強めているので、そこに、

出来事にかかる無の集中もまた、強していきま
す。出来事とはよきにしろ、悪きにしろ、時間が
経つほど他の生命がふ
えますので、それは何か
しらの基準となります
ので重みが強します。こ
こで一つ注意点があり
ますが、自分がいくら苦

しみを積んで反省して
いても、無の人に、無に
近い人に、無に向かおう
としている人、ならおう
としている人にちょっ
かい、悪さをしてしま
うとそれは当然相手の正
しい意識分だけ、そこ
にかかる無の思い分だけ、
それは永遠であります

ので、あなたは一発アウトになります。無は相手が正しいことをすることを邪魔するということ、を極端に嫌うという性質を持っています。また、完全にもうみなさんの中でやってはいけない悪さと確定づけられているものをしてし

もうことも一発アウト
の波長で取られます。こ
れらは全て後で自分に
とってもとても大変に苦
しいかたちで返ってき
ますので気を付けてく
ださい。暗示が出たとき
は、それは物理に起こる
必然のときであり、これ
をわかってやってしま

う悪さは必ず無意識によつてそれはプラスに転化されるのですが、その分はあなたが必ず苦しい思いをするので気を付けてください。波長というのは、無に正確な点数のようなもので取られていると思つてください。この世に生まれ

てきたとき、あなたには必ず永遠という意識のベースがあり、それは時間にふえているのですが、そのスピードは永遠を永遠に永遠乗のスピードなのですが、この世界でああなたが生きていく以上はあなたは完璧な無では無い以上はそ

れは当然その分の意識
のミスを自分が記録し
ていることにも当たり、
また自分が完璧な無で
無いうちは、自分は誰か
しら何かしらの意識の
死にお世話になってい
ることも指しますので、
その関わりとの中で、自
分が次への他の誰かの

ための役割として、もしくは、今回の世界では、ちょっと取り戻すのが難しいような悪さをしてしまった場合は、それは当然無の完璧な感覚の時間のあるときにあなたを人間でしたら肉体の死という循環にあなたを押し遣り、(そうでな

い場合でも、肉体の死はあります。それは無意識でふえる生命とあなたがどこの世界に暮らすかをお互いに選択し合っているためです。その時間も無意識によって決められています。) あなたの自覚を、意識を、肉体という抵抗から外

し、無意識に持っていき、
そこで適切な処置をし
たあと、あなたの自覚を
再構成、そしてあなたを
次の自覚へ送るかたち
になりますので、今の自
分という自覚をなるべく
く残したいのであれば、
決して無茶なことはせ
ず、なるべく正しいこと

を行うように心掛けて
ください。

9 に続く。